

C 職員（保険年金課 男性）

1. 派遣された期間

1月30日(火)～2月4日(日)

2. 派遣された場所

石川県輪島市（三井公民館）

3. 担当した業務内容

避難物資の発注及び在庫管理

避難者の要望の聴取

簡易シャワーの予約受付・メンテナンス

避難所運営の後方支援

4. 派遣されたときの現地の状況（インフラや倒壊した建物、災害ごみの状況など）

・道路はコンクリートが剥がれたまま、建物が倒壊し道路をふさいでいる状態であるところが多数（整備は毎日行われていた）

・歩道は地面が隆起したり、ガラスが落ちていたり、家が倒壊していたり、安全に歩ける状態ではなかった（整備も行われておらず）

・被災した家の片づけを始めている避難者も多々出てきており、災害ごみを家の前においている家も多々見受けられた

・食料品を販売している店が限られており、また営業時間も制限している状況であるため、調達が困難な避難者も見受けられた。そういった避難者は避難所のように物資を管理している場所に受け取りに来ざるをえない状況であったと思う

・電気は通電しているものの、上下水道がともに停止しており、排水関係が特に厳しい状況であった

5. 被災者の様子（避難者の健康状態、避難所での協力体制、要支援者への対応など）

・前向きな被災者の方々も多く、支援に行った我々に対しても明るく接してくれる方が非常に多かった。

・避難所の運営においては地域の方々との連携が非常に重要であり、地域内の避難者の状況の把握は地域の会長等の役職の方々 が請け負っておられた。応援職員が先陣を切って運営を行うのではなく、地域の方々の運営のバックアップが主な仕事となっていた。

6. 避難所の様子（支援物資は行き届いていたか、生活空間は整然としていたかなど）

・支援物資はニーズの高いものほど、なかなか納品されず、代替品が届いてもニーズにそぐわないことも多々あった。ただし、食料品においては納品は早い。ただし、望まれるものでないものが納品されることも多かった。

- ・派遣された地域では夜は非常に暗く、また2次災害の可能性もあるため夜間・早朝に避難物資を取りに来られる方はほとんどいなかった。

7. 現地で困ったこと(宿泊、断水、停電、トイレ、食事など)

- ・断水により排水ができないことについては非常に不便さを感じた
- ・水洗トイレの重要性を再認識した

8. その他に気がついたことがあれば

- ・昨年に防災センターにて研修に行ったが、その際に発災後はまず「トイレ」が一番重要であると講習を受けた。まさにその通りであると感じた。
- ・情報の共有が早く、物品の納入があればすぐ取りに来られることが多かった
- ・避難所運営は地域との連携が非常に重要であり、普段から行政と地域が密接な関係を築くことが大事であると感じた
- ・水洗トイレの役割を果たすトイレカーはとても有用なものであるため、非常時に備えておくことが重要だと感じた

10. 派遣を終えて感想(行く前と災害についての考えが変わったなど)

- ・普段の生活がいかに便利かを痛感した
- ・災害時は特に「行政」ができることを「行政」がこなす、「行政」のみで完結しない問題については「地域の方」と協力するなど「行政」ができるできないを判断することが重要だと感じた。